

探究を 「学びの核」 とするために

—探究学習の課題共有から始める
高大連携の実践と展望—

参加無料

2025年

10/6 月 15:00
↓
17:00

関西大学 梅田キャンパス
8Fホール

(大阪市北区鶴野町1番5号)

<https://kandai-merise.jp/access/>



▲アクセスマップ

オンライン参加可



基調講演

池田 文人氏

大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員、
大阪公立大学 国際基幹教育機構 教授・学長補佐、
アドミッションセンター長

探究の核となる 「問う力」の育成と評価の試み

探究の出発点は「問い」です。優れた問いは質の高い探究へと私たちを導きます。優れた問いとは、科学的、すなわち論理的な問いです。論理には、帰納・演繹・仮説の3つの推論があります。これら3つの論理推論のサイクルを適切に回すことで探究が進みます。つまり、3つの論理推論を問い直し、正確にすることで、探究の質が高まります。こうした問う力は、社会に出てからも大切であり、グローバル社会における不可欠な能力です。このような論理推論を適切に問う力の育成と評価に関する実践的な取り組みを紹介します。

事例発表

「土曜日をデザインしよう！」

～大阪女学院中高の取り組み

山崎 哲嗣氏

大阪女学院高等学校 校長・副理事長



リサーチクエスチョンの生み出し方

～生徒、教員、+ α の対話から～

西澤 淳夫氏

大阪府立千里高等学校 教諭



対 象 高等学校・大学 関係者 ほか

申込期限 9月30日(火)

定 員 60名 (先着順、事前予約制)

申込方法 以下URLまたは右のQRコードよりお申し込みください。
<https://forms.gle/E82NJNZEihGS1TNVA>



開催趣旨

全国の高校で進む探究学習。その実践には大きなばらつきがあり、多くの学校が進め方や大学との連携に悩みを抱えています。一方、大学側も講師派遣などの要請が増える中で、どのように関わるべきか模索が続いています。本フォーラムでは、高校と大学が探究の実践知を共有し、支援と連携の可能性を探ります。現場の声をもとに、リサーチクエスションの指導や成果評価の視点についても議論を深めます。

プログラム

- 15:00 ● 開会挨拶 真銅 正宏氏 大学コンソーシアム大阪 高大連携部会長／追手門学院大学 学長
- 15:05 ● 基調講演 池田 文人氏
- 15:45 ● 事例発表① 大阪女学院高等学校
- 16:05 ● 事例発表② 大阪府立千里高等学校
- 16:25 ● 意見交換(登壇者および参加者による)
- 16:55 ● 閉会挨拶 高屋 定美氏 大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員会 委員長／
関西大学 高大連携センター長、商学部 教授

●ファシリテーター 峯 明秀氏

大学コンソーシアム大阪 高大連携部会推進委員会 副委員長
大阪教育大学 理事・副学長

事例発表①

山崎 哲嗣氏

大阪女学院中学校・高等学校 校長
関西学院大学文学部哲学科卒
社会科、国際バカロレア教員
陸上競技部顧問

発表概要

大阪女学院中高では2025年から正規カリキュラムを月曜日から金曜日まで、土曜日をそれぞれがどのように使うかを考えることにしました。
その一環として教員・生徒・保護者が原案を出して「土曜プログラム」をスタートアップしました。その内容は4つの象限、すなわち Creativity, Activity, Service, Learning から成り立っています。その活動の途中経過をご報告します。

事例発表②

西澤 淳夫氏

高校教員17年目。現勤務校で11年間、理系探究を指導し、延べ100名近くの生徒と活動してきた。昨年度からは文系探究を担当。今後は文理融合探究の可能性を追究する。

発表概要

リサーチクエスションの設定は探究活動の中でも特に困難な部分です。私が思う効果的な方法は、生徒と「対話を重ねる」ことでした。対話の中で、生徒の経験や気づきを引き出し、リサーチクエスションへと昇華させます。また、専門家・企業・大学との連携といった“+α”の関与も、探究の質を高める要素となります。これらの実践から得られた知見や手法を参加者のみなさんと共有し、議論したいと考えています。

問い合わせ先

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 事務局

TEL: 06-6344-9560 (平日9:30-17:30)

E-mail: koudai★conso-osaka.jp ※★を@に変えてください。

